

岩国市中小企業等振興審議会委嘱式及び第一回審議会議事録

日時 平成30年4月25日(水) 13:30~15:00

場所 岩国市役所 6階議会会議室

出席者 委員14名(欠席1名) 別添のとおり

事務局 産業振興部長、商工振興課長、商工振興副課長、ブランド推進班長、
班員、企業労働班長、班員2名

その他 報道機関1社、傍聴人0人

1. 岩国市中小企業等振興審議会委嘱式

- ・岩国市長から各委員に委嘱状を交付
- ・市長あいさつ
- ・岩国市 産業振興部長より審議会の役割について説明

2. 委員及び事務局自己紹介

3. 会長・副会長の選出

委員の互選により、会長を有村委員とすることに決した。

有村委員より副会長の氏名について提言があり、要綱7条の規定に基づいて片岡委員を副会長とすることに決した。

(報道退出)

4. 議事

(1) 「岩国市中小企業、小規模企業及び小企業振興基本計画」について

(会長) この会議の役割は、中小企業等の支援に関する施策について意見を述べる場と考えています。そのためには、現在の岩国市における経済状況及び支援策等についての情報等が必要となるので、事務局より説明をお願いします。

(事務局 説明)

- ・「岩国市の経済環境について」(資料2)

(会長) ただいまの説明について、ご不明な点などございますか。ご質問があればお願いします。

(会長) 私から質問させていただきます。

岩国市では、人口減少が大きく、防府市よりも減少率が高い。資料2を見ると、10～18歳男性及び20～29歳の女性の子育て世代が減少傾向に思える。

また、高校を卒業するあたりの年代の県外転出が多く思えるが、進学もあるとは思いますが、高卒の就職でも地元から出ているのかなと心配になった。このあたりについて情報はありますか。

(委員) 都会に高校や大学の進学を機に進出し、戻ってこない状況。岩国の町は住むための糧(暮らす場所や働く場等)となるものが揃っていないのではないかと考える。

(会長) 人口ビジョンを参照すると、若い世代は地元志向が決して弱いわけではないのに、機会ごとに市外へ転出してゆく。これはとてももったいなく感じる。

(委員) 松山市の事例等では、高校生と地域の関わりを増やすと良いと聞いたことがある。そういう意味では高校生や大学生がこの町に出てきて何かの催しに参加するとか、町とかかわっていく機会が増えれば少しは何か効果があるのかなと思う。

(会長) 20年くらい前の山口大学では、県内よりも都会にチャレンジされる学生が多かった。だんだんと就職が難しいということで地元志向が出てきている。学生の就職活動は合同説明会へ足を運ぶよりもリクナビ等への登録をする者が多い、あるいは福岡や広島に行って就職活動をする。

しかし今年から、山口の若者就職支援センターと協力して昨年、山口県内で40億円以上の売上有る企業を集めて合同説明会を実地した。ゼミ生に、たぶん行かないだろうなと思いつつも、声をかけると半分以上が参加した。今までそのような傾向が無かった、若い人でもしかしたら地元志向が増えている気がするので、ぜひともその辺の振興をしていって、Iターン・Uターンもあるが県内から出て行かないように。そのような取り組みがこれからできたらいいと思う。特にこの人口の減り方が大きかったから、なんとか残せるようにしたい。

(事務局) 事務局より補足説明をいたします。高校生の県内就職は高卒で6割から7割、また以前工業高校の先生とお話させてもらったときに市内に就職するのは、県内で約半分くらいとのこと。広島での就職が多いと聞いている。

(委員) 地元志向というところで、今市内の状況は大まかな説明はあったが、私はいわゆる中山間地区、旧名でいくと港町というところなのだが、人口の減少が進んでいる。地元の岩国高校の分校、坂上校について、そこの今年の卒業生が23人いて、就職が16人、そのうち14人が岩国市内に就職している。やはり、卒業して岩国に残りたいという意見もある。

(委員) 広島と岩国の距離感について伺いたい。

広島に就職して市外へ転出とのことだが、岩国は広島のベッドタウンという認識があった。岩国から広島へ通勤ではなく転出する理由は何か。その原因が分かれば策を講じて岩国に引き続き住んでもらえるのではないか。

(会長) 夜間人口と昼間の人口だと、夜間人口のほうが多い。岩国に住み県外に就職人もいながら、なおかつ若い人も出て行ってるような感じがした。

(会長) 防府でも卸小売分野の減少というのは深刻な問題になっているが、岩国市の場合空き店舗率は低いのだが、今回私は歩いてないのでわからなかったが、商店街の方はどうなのか。現在の状況をうかがいたい。

(委員) 空き店舗率は確かに減ったが、夜型へと傾倒していつている。飲食店が多い。時間消費型のパーマ屋、飲食、居酒屋等は需要がある。一方で物販業であるとか雑貨屋・洋服屋等は少ない。そうしたかなり極端な状況になっている。

空き店舗率が低い割りに、昼はそれほどにぎわっていない。また、3件の店舗が空き店舗だったものが1件の駐車場になった場合など、統計上数字に表れていないものもある。ではその昼の賑わいを増やすのにどうしたらいいのかとイベントをやってみたりしているが、そこが今現状の一番のウィークポイントなんだろうと思われる。

(会長) 実際お店をやられてる方はどうか。実際お店をやっている方はどうだろうか。

(委員) 先ほどの市外転出については、広島に住むことを条件に雇用をされることもあるので、広島に転出してしまわないのかと考える。事業者からすれば、少しでも近くに勤務してもらいたい。

(事務局より人口について最新の動向を追加説明)

先ほどのデータが28年なのだが、最近市のほうでまとめたもので言うと、指摘のあった世代の転出が多いことには変わりはないが、転出超過の数自体は多少減っている傾向にはあると思われる。具体的には平成27年では858人が転出超過だったものが、平成28年には809人ということで、転出超過自体は減っている。男性では先ほど言っておられた、15歳～19歳に転出が集中している。女性も15歳～19歳、それと大学卒業して就職する際の20～24歳、そこが転出している。

(会長) 15歳～19歳は進学も含めてということだろうか。

(事務局) 転出先は広島、そして県外が多くなっている。

(会長) 今回のデータではどこに原因があるのかは見えにくかった。防府市の場合、一番大きな問題・危機感として一つの企業に頼ってしまっている現状というものがあった。岩国市の場合の一番の危機感はどこになるのか、今回のデータでは分からない。これについて今後意見交換をしていければと思う。

(事務局説明)

- ・「岩国市中小企業、小規模企業及び小企業振興基本計画（更新）」（資料3）
基本計画の更新に伴い、更新部分を主に説明
- ・岩国ブランドの進捗状況について説明

(会長) 計画について、多様な事業を実施しているようだが、防府市の場合予算が少ないものなどは削除を提言したりといったことがあった。計画に掲載されている事業の詳細及び予算額を提示して欲しい。

(中小企業センター事業、経営安定特別相談室について補足を求める)

(委員) 経営安定特別相談室補助金については、中小企業の事業再建に資するための事業だが、今まで県事業として実施していたものを市の事業として承継したものである。

中小企業支援センター事業に関しては従来あったものだが、本年度より岩国市の計画でやらせてもらうことになっている。事業詳細は創業者の相談、又は創業に際する借り入れ、また市の制度融資を利用する際に支援センターのアドバイザーの推薦をもって利用することになっている。

経営安定特別相談室については、従来は県の制度で行っていたが、今年度より岩国市の事業で、事業承継も踏まえたもの事業承継に関しては県予算のほうで専門家の派遣等もあるが、こちらについては制限的なものになるため、岩国市のほうで対応している状況ではある。

(事務局) 事業承継事業については、後継者のいないがために廃業する事業者が大変多く、岩国市は全国ワースト2位となっている。全国平均は66.1%だが、岩国市は75.7%となっている。

(会長) 創業支援について、創業後のサポートは実施しないのか？やはり金額等の情報が欲しい。

また、人材育成の事業に女性の創業支援等はしないのか。一般的な人向けの印象がするので、女性向けのサポートなどを出した方が今の時代にはあっているように感じる。

ブランド化、地域商社について防府市でも「しあわせます」というブランド戦略をとっている。岩国は東京での販売の際に計画の3倍の売り上げがあったとのことだが、その要因は何だと考えるのか。

(事務局) 地酒と蜂蜜が大変よく売れたことが要因。最も売れたのは蜂蜜だった。

(会長) 支援として、東京だけでなく海外への事業展開の支援をすべきと思う。岩国の特産品である酒の市場開拓を海外で実施するといった案が出れば、今までにない、この審議会から出た一つの成果となると思われる。新しいアイデアを出していてもらいたい。

(委員) 地域資源ブランドについては、「地域資源」でなければならないのか。また、「地域資源」の認定について、そのものの認知度が低いと感じている。もっと情報発信をすべきだと思う。

事業の周知及び、周知する場が欲しい。

(事務局) 「地域資源」についてはもっと広い枠組みの考え方なので、ブランド推進の基本方針も、従来の代表的な特産品に加えて、新しい魅力ある特産品をどんどん出していこう、と考えている。魅力があり、消費者の方に向けるものであれば市としてはどんどん売り出していきたい。「地域資源」の認定でなくても岩国市として推していく方針である。

(会長) 市では中山間の計画等、関連する計画が多くあるのではないかと思われるので、他の計画との関連もその都度提示していただけたらと思う。

時間が迫って来ましたので、今回はこのあたりまでとし、次回事業の詳細と予算額を提示していただいて更に意見交換をしていければと思います。

(事務局) 次回審議会は平成30年5月24日(木)14:00から41・42会議室

要求いただきました資料をもとに、次回意見交換をし、提案や意見を施策に反映していく予定です。

また、今年度は秋に第3回目を予定しております。